

令和2年度 「保育所の自己評価」結果について

令和3年3月22日
社会福祉法人 ゆめ和
ゆめ和ほいくえん

ゆめ和の“保育理念”を基盤とし、今年度本園の職員で取り組んできたことについてのご報告をさせていただきます。

〈 目 標 〉

「保育技術の向上と見通した保育」
—子ども達と対話し、身体を動かして遊ぶ—

〈 課 題 〉

- 計画通り、保育を全職員で、しっかり準備して進める。「伝え合いの保育」
 - ・ 目的やねらいを把握・理解し、環境を整えて保育を進める。
 - ・ 領域別の発達を抑えた指導計画の作成。
- 年代や一つの保育から次の関連性や連続性と環境及び仕事量を考えて保育を進める。
 - ・ 保育を見通す。
やって終わりではなく「その先、どのようにつなげるのか?」「どのように発展させていくのか」を考える。子ども達が次の学年への興味・関心やあこがれ等を持てる保育を組み立てる。
- 個と集団が育つ「保育」
 - 0～2歳児
 - ・ 甘えをしっかり受け入れる。
 - ・ 一人遊びをしっかりと保障する。
 - ・ たくさん歩く。
 - ・ 各年代の基本的な生活習慣を着実に身につける。
 - 3～5歳児
 - ・ 各年代の基本的な生活習慣を確実に身につける。
 - ・ 聞いて・見て・考えて・行動する。
保育士が言葉を選んで何度も伝え続ける。
一方的に教え込む保育はしない。
 - ・ 小集団活動の導入
友だちとの関係から“集団”のことを考えられるように。
 - ・ 保育士の動きすぎや声の出し過ぎ、言葉だけで動かすすぎに留意する。
- 職 員
 - ・ 保護者、地域の方との日常のコミュニケーションを強化する。
 - ・ 職員同士、一人ひとりが相手を思いあって協力し、より良い保育を行うためにも言葉を選び、コミュニケーションを活性化する。
 - ・ 園庭開放や交流保育で地域の親子と積極的に交流をする。

〈 課題に対する取り組み・保育効果 〉

● 0～2歳児 —— 基本的な生活習慣の基礎を大切に保育 ——
子ども達が保育士に安心して甘え、自分を表現できるように、一人ひとりが甘えたい気持ちや表現、言葉を丁寧に受け止めることを大切にして関わった。コロナ禍で、玄関での受け入れ・引き渡しとなったが、園での様子が少しでも伝わるように口頭で伝える等努力をした。

0歳児

0歳児の生活習慣の中で重要な食べる事（飲むこと）については、聞き取りを個別に行い、食事の際には口を大きくあけて食べる事、その子にとって安全で、満足がいく食事を特に意識して関わった。遊びの中で手の使い方も見ていき、食具を持つ事にも、その子が持つタイミングを特に意識して関わった。

歩行が出来るようになった子から活動量を意識して過ごし、“遊ぶ・食べる・眠る”という充足感がある生活が出来るよう配慮した。例年のように歩き込む事は出来なかったが、日々、動くことを意識出来た。

子どもが興味をもったこと（帽子を自分で取る等）、出来そうなこと（手を洗う等）は、折を見て子どもに委ねた。“やってみよう（興味・意欲）”と“出来そうなタイミング（発達）”が重なる事が多く、保育士も日々の変化を楽しんで援助できた。

1歳児

子ども達の健康を第一に考え、健康面や発達を個々の状況に合わせて様子を伝え続ける事の大切さを改めて感じた。

排泄については個々に合わせ丁寧な関わりを大切に。“友だちと一緒に”という喜びを感じながらトイレトレーニングを進め、布パンツで過ごせる子が増えた。個々の状況に合わせて、イヤイヤ期の中でも、無理なくトイレの便座へ座れるようにした。

なるべく散歩へ出掛け、“歩くこと”に特に力を入れた。11月には、往復2km歩けるようになった。友だちと遊びの中で手をつなぐ事を積み重ねた。“友だちと一緒に”が楽しめるようになり、手をつないで園舎内を散策したり、一緒に遊んだりする姿があった。そのような姿を大切にしてきたことで、散歩の約束を理解して友だちと一緒に楽しめるようになった。

9月頃から生活の流れをしっかりと作っていく中で、11月頃には、自分で自分の身の回りの事をやろうとする姿がでてきた。自分でやりたい！という気持ちを大切にすることで、出来た時の達成感や喜びを大いに共感し、生活習慣の獲得へと繋げる援助をした。

2歳児

“自分でやろう”とする意欲を受け止めながら、自ら行えることを増やしていくことで、自分で出来た（出来る）という喜びを感じながら基本的な生活習慣を身に付けていけるようにした。

また、生活のあらゆる場面で友だちを意識し、刺激を受けながら“みんなで過ごしている”ということを感じられるよう関わっていった。「友だちが布パンツを履いているから履いてみたい!」「自分も服を綺麗に畳めるよ、見て!」等の姿が多く見られた。

生活の節目にお気に入りの絵本を繰り返し読み聞かせしたり、好きな絵本を自分でじっくり読む（見る）時間を作ったりと、様々な絵本への興味を持てるようにした。フレーズや、絵の面白さに気付き、声に出して楽しむことを大切にした。そこから、製作や言葉遊び等の様々な遊びに発展していくことが出来た。

自分だけではなく、“みんなのもの”という所から、みんなで順番に使うことや、物を大切に使うことを伝えていった。

● 3～5 歳児 — 友達と対話し、保育士と一緒に身体を動かして遊ぶ —

幼児であっても、自分の気持ちを自分の言葉で伝えられるということを当たり前せず、その都度丁寧に話をしたり、関わることを大切にした。また、その子なりの言葉、表現を出せるよう関わった。

保育士も遊びに入り、子ども達と一緒に楽しむ中で、ルールや約束事の大切さも感じられるようにした。

保育士と一緒に遊び、生活の中で“手本”となる事で「守るから楽しい」「〇〇するから出来る」ということが、繋がることを子ども達が経験出来るようにした。

3 歳児

“みんな”で取り組むことを大切にした。

クラス、グループ、友達と遊んでいる時など、生活の様々な場面で一人ひとりが自分の気持ちを出したり、友達の気持ちを知ることが出来るようにした。友達の気持ちに気付き、自分の思いだけではなく、友達と関わりが持てるように伝えた。

絵カードを使用し、生活の流れを視覚的に分かるようにした。

4 歳児

周りを見て自分で気付けるような声掛けをした。

自分の思いを言葉にして伝えられるように、じっくり子どもの話を聞くことをした。繰り返し伝えたり、聞き続けることをした。

子どもが気持ちを表現できるように、集まって話をしたり、保育士の話を聞く時は、話し手の方を見て話を聞くという姿勢を伝えた。

5 歳児

みんなのことを考えて、みんなで進めるために、自分は今どうしたらいいかを考えて行動するということが大切にした。それぞれ一人ひとりの気持ちを大切にしつつ、自己主張する中で、「友達はどう思っているかな?」「みんなはどう思う?」「それが自分だったらどう?」という気付きと話し合いを重ねて“みんなで生活を進める”ことをしていった。

すいすい組だけが出来ることも、なぜ自分達は特別でできるのかということが分かるよう投げかけた。特別なことが嬉しいだけでなく、自分達のやったことが下の学年の子ども達

にも繋がっていくのだということも理解し、一番上の学年として誇らしく思えることも大切にした。

< その他・取り組んだこと >

- 保育を振り返り、新たに指導計画を作成し、玩具の見直しを行った。
- 子ども達の好きな絵本の内容から劇遊びや制作等、表現活動を行った。
- 子ども達が自ら遊びの環境を作ったり、工夫できるように物を用意したり、配置等を考慮した。一年を通して子どもの変化を見ながら取り組んだ。
- 新型コロナウイルス感染防止対策で、通常の消毒や清掃に加え、範囲を広げ、定期的及びこまめに感染防止に努めた。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子ども達が楽しめる行事、イベントが出来なかった。職員で話し合い、夏祭り（2日間）、秋祭り（2日間）を実施した。

事業計画を基に、1年間「どのような取り組みを行ったのか」「出来なかった事は何か、またその理由は何なのか」を話し合い、全職員が1つのチームとして仕事に向かっているのかを確認し、次年度への課題を挙げた。

《 次年度の課題 》

- ・ゆめ和の職員全体が、保護者にとっていつでも話やすく、相談できるような姿勢であることに努めます。
- ・園や子ども個人の様子が分かるように、会話や、特に連絡帳、掲示等で丁寧に伝えます。
- ・季節の食材や、行事などで食べることの楽しさを大切に献立作りや掲示等で、保護者のみなさんに分かりやすく伝える工夫をしていきます。

